

# D-Case駆動ソフト開発(DCDD) およびD-Case実例紹介

第5回 D-Case実証評価研究会  
2014.03.18 国立情報学研究所  
(株)デンソークリエイト 宇都宮浩之

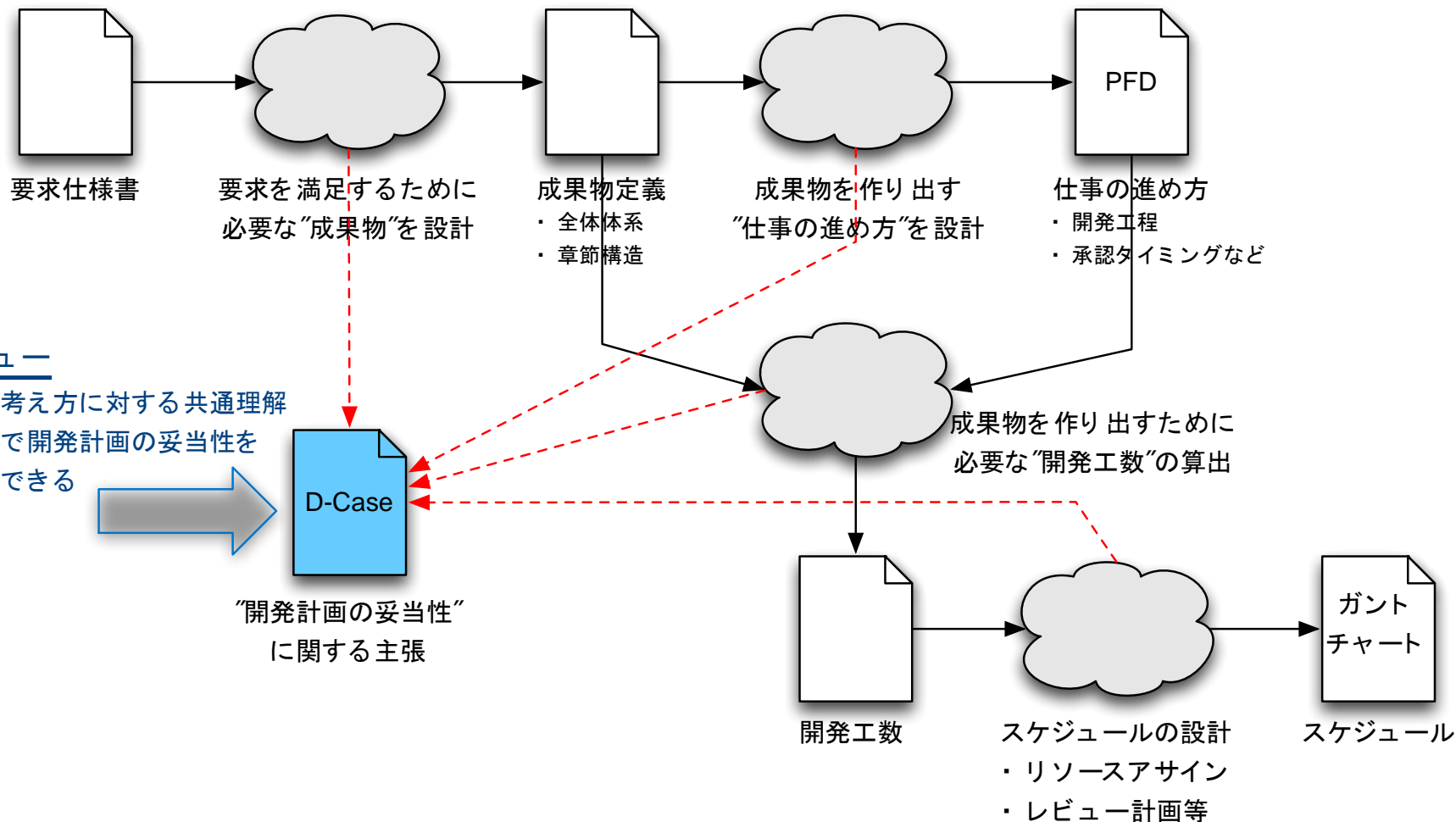
- D-Case駆動ソフト開発の紹介
- D-Case実例の紹介、および議論
- D-Case部会で議論、検討したいこと

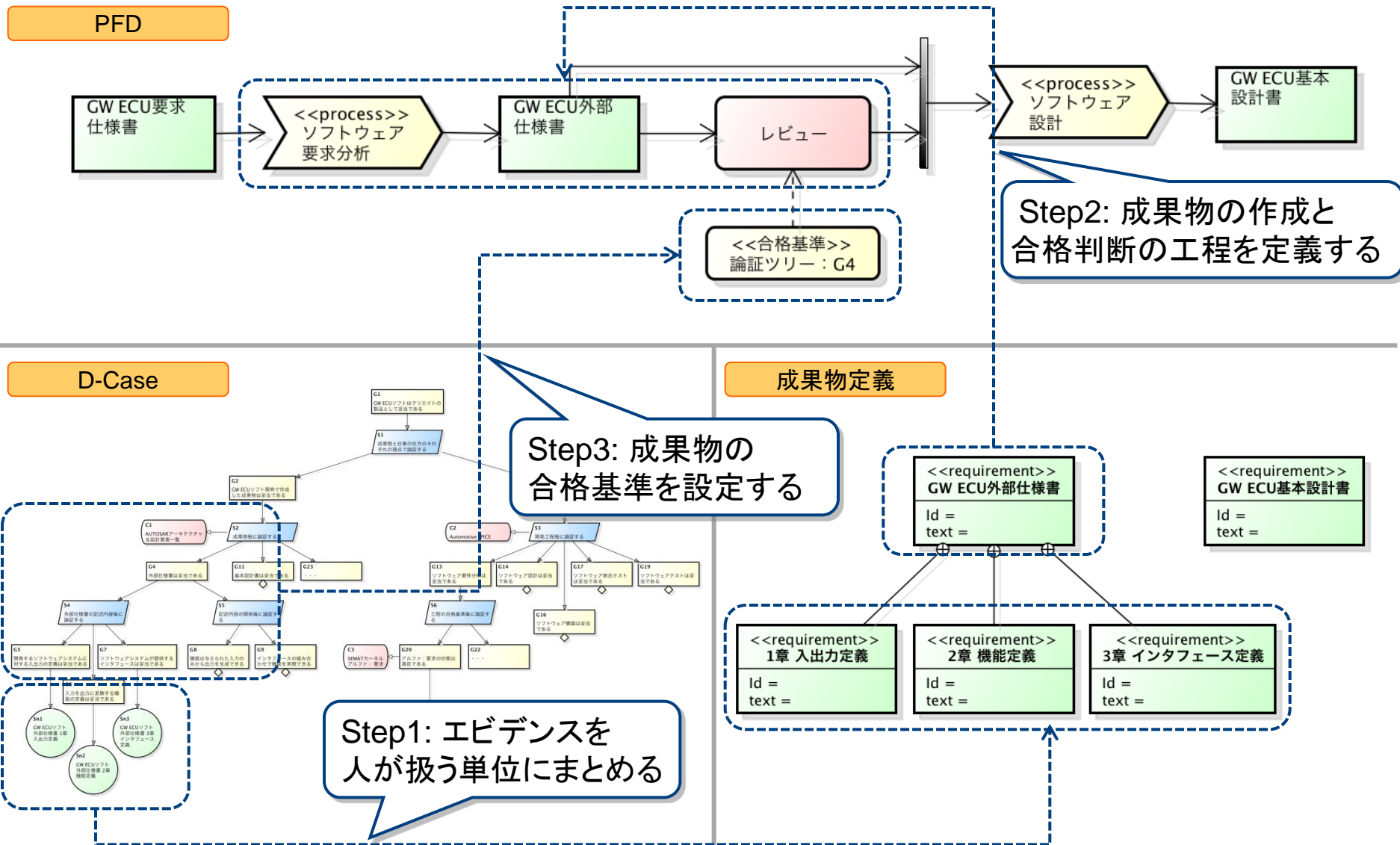
- 「開発の仕方」の妥当性を事前に論証してから作業開始
- 具体的には以下のタイミングでD-Caseを作成
  - 計画立案時・・・「開発の仕方」の全体像を論証
  - 設計作業開始時・・・「成果物」視点で論証を全体像に追加
- 表記法にD-Caseを採用することで以下の効果を狙う
  - 必要十分な成果物のみが定義される
  - 論証したツリーが自ずと成果物の合否判定基準となる
  - 作業開始時点で見通せていない変化を監視する仕組みを織り込める

※D-Case駆動ソフト開発(D-Case Driven Development)  
以降、DCDDと表記します

## 従来からの強化点

- 計画結果をその妥当性の根拠となる“考え方”に基づき承認する

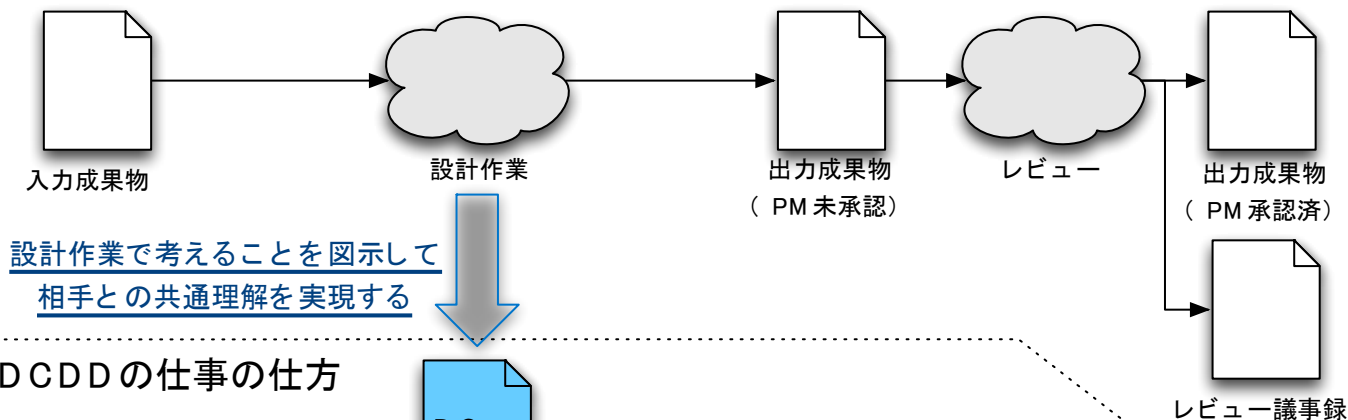




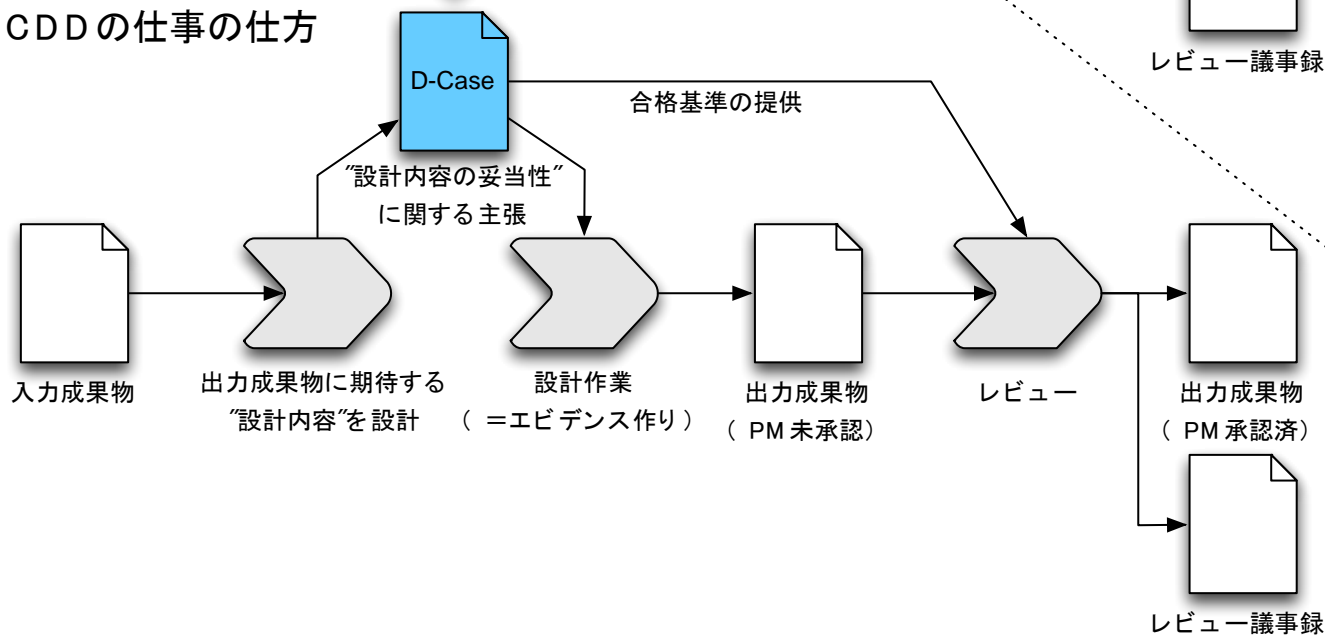
## 従来からの強化点

- 設計開始前に共有した合格基準に基づき成果物を承認する

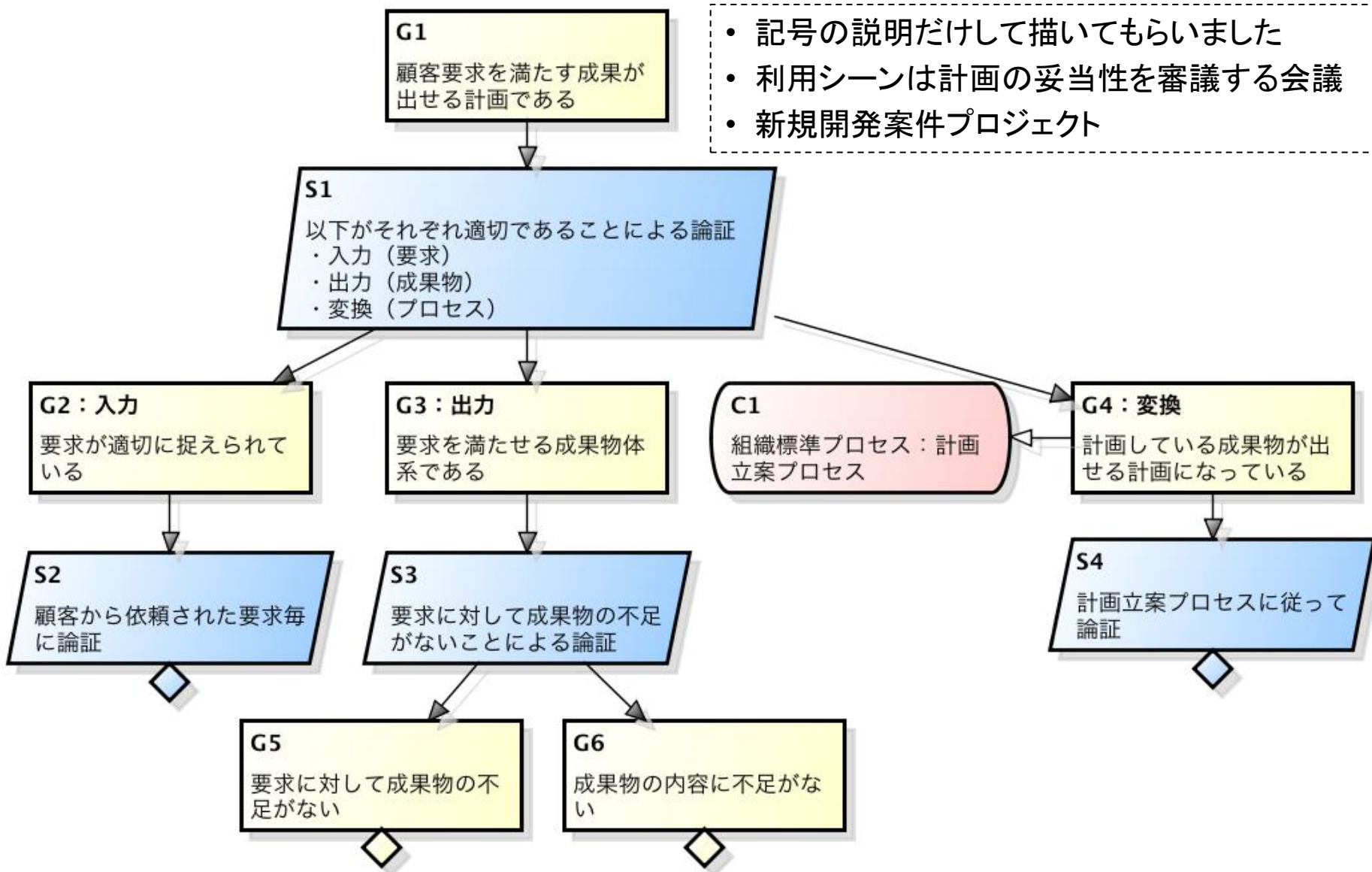
### 従来の仕事の仕方



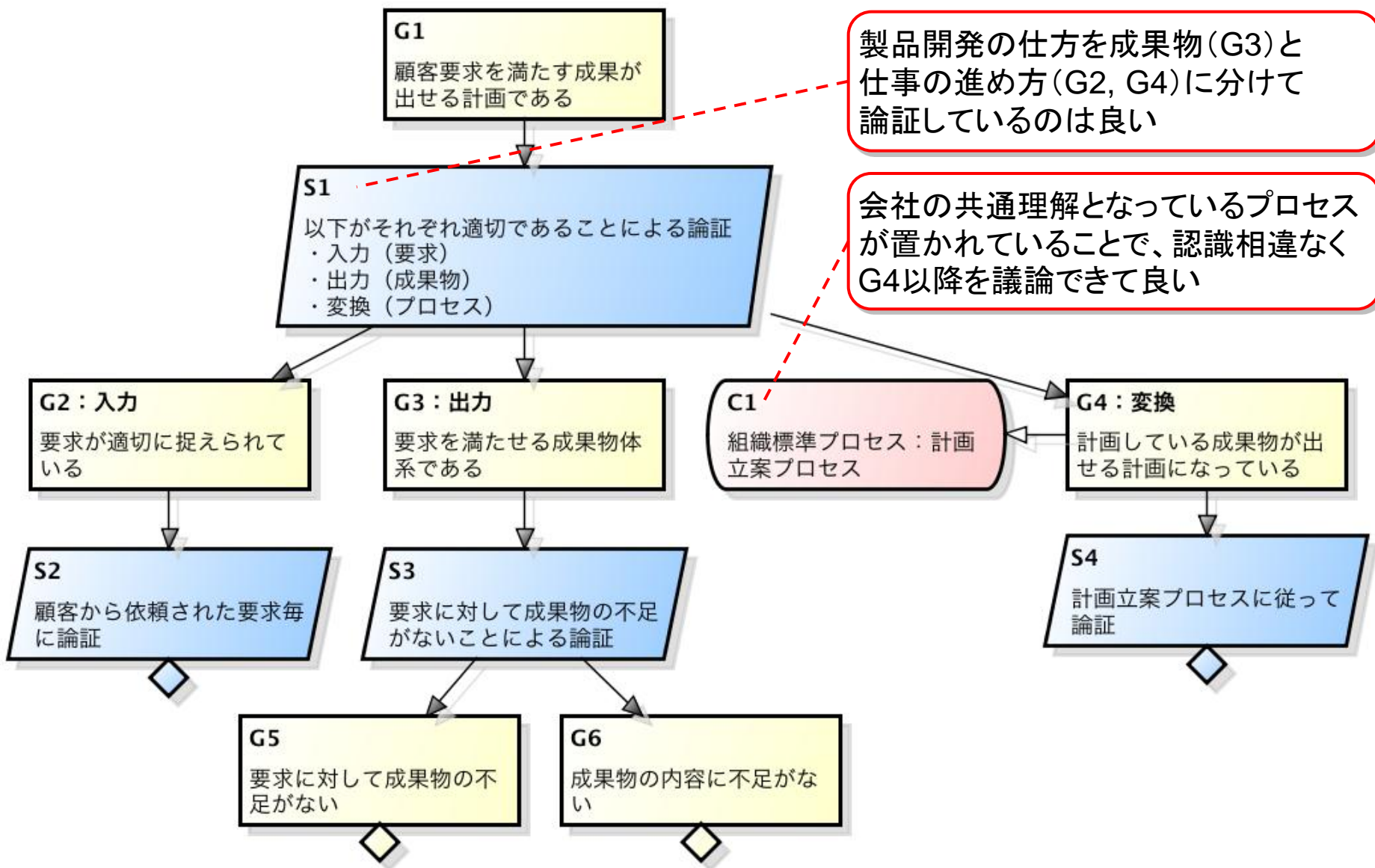
### DCDDの仕事の仕方



# はじめてのDCDD: 計画立案の事例①

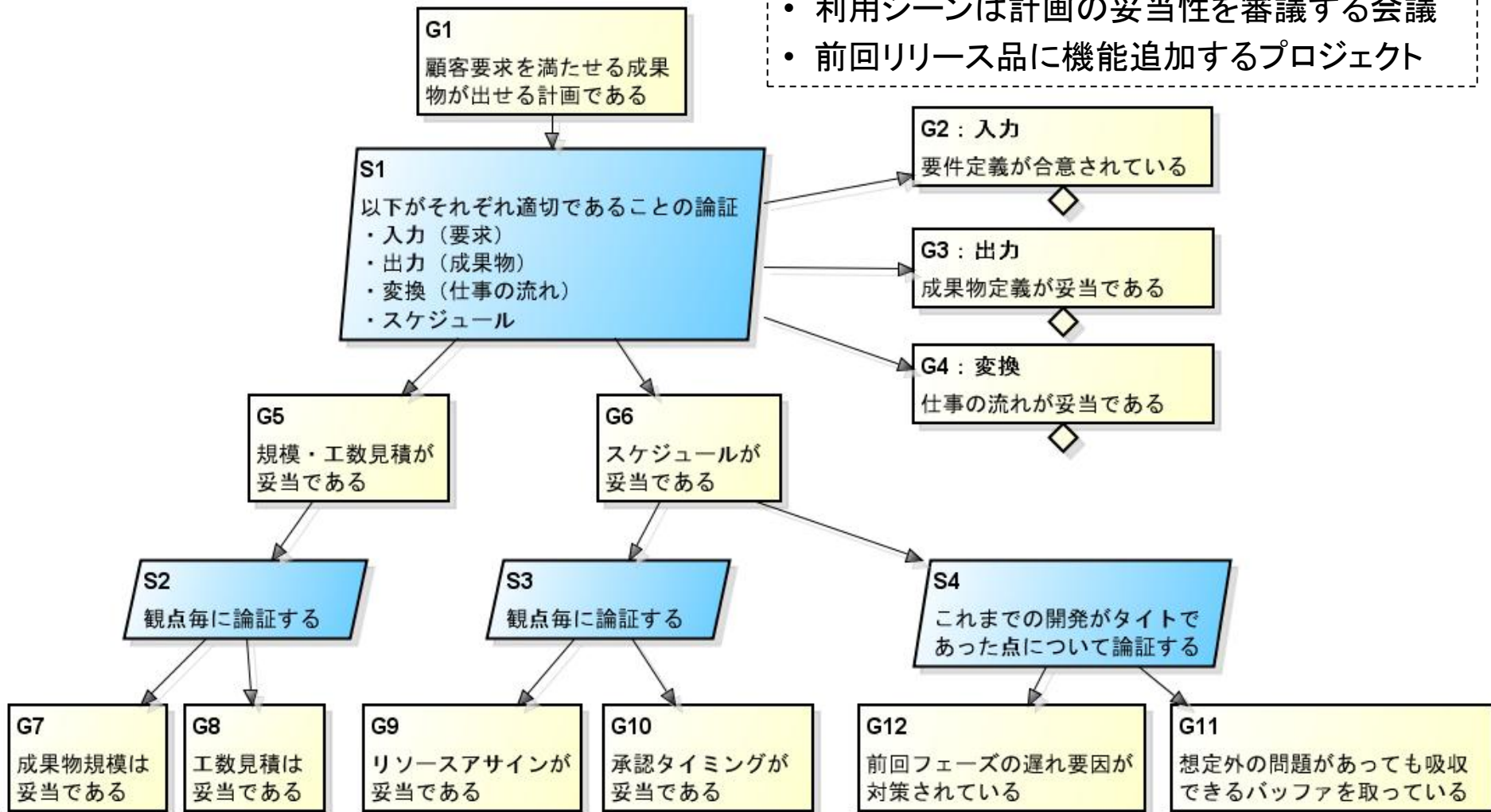


# 計画立案の事例①:こんな意見が出ました

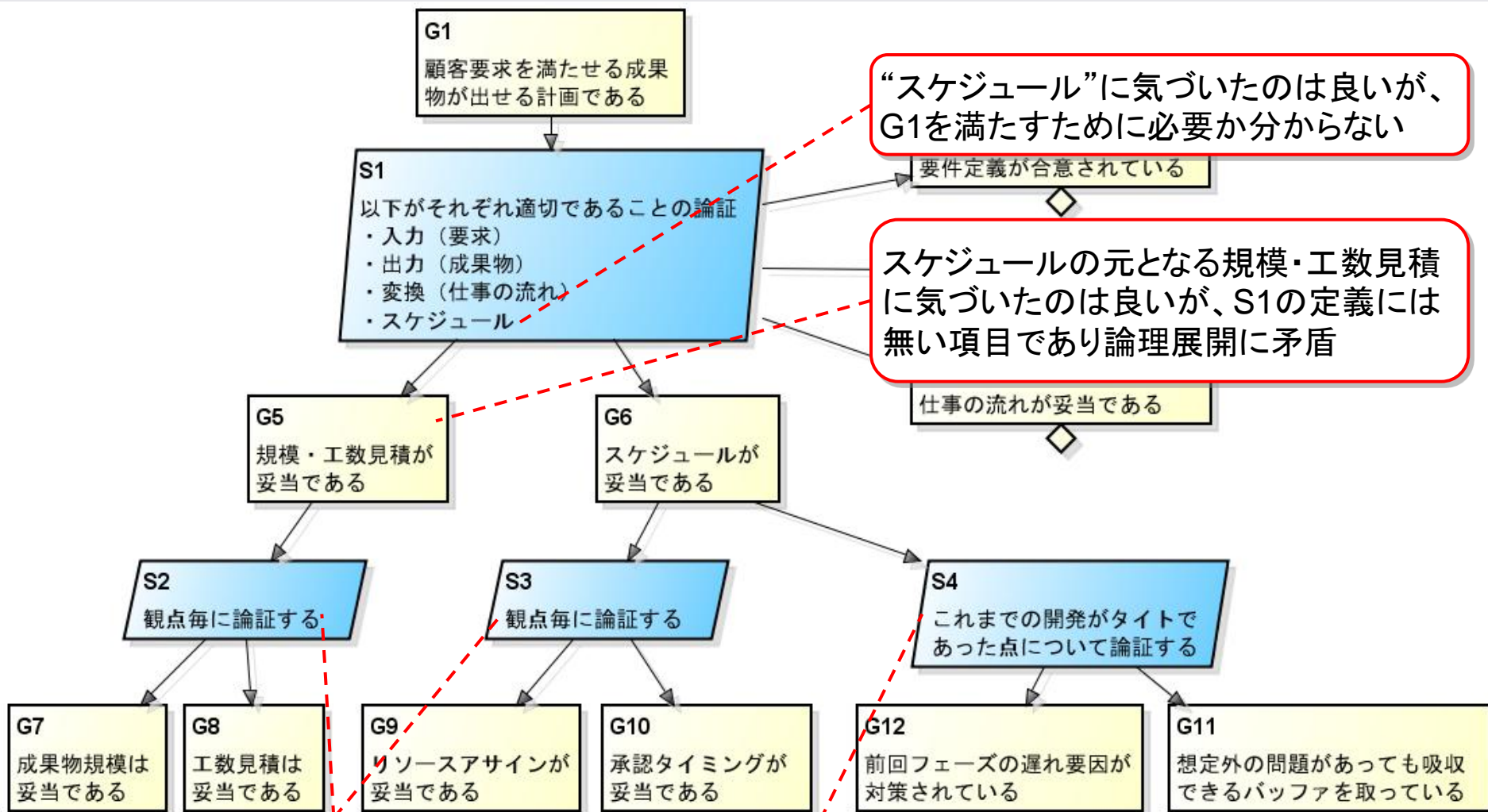


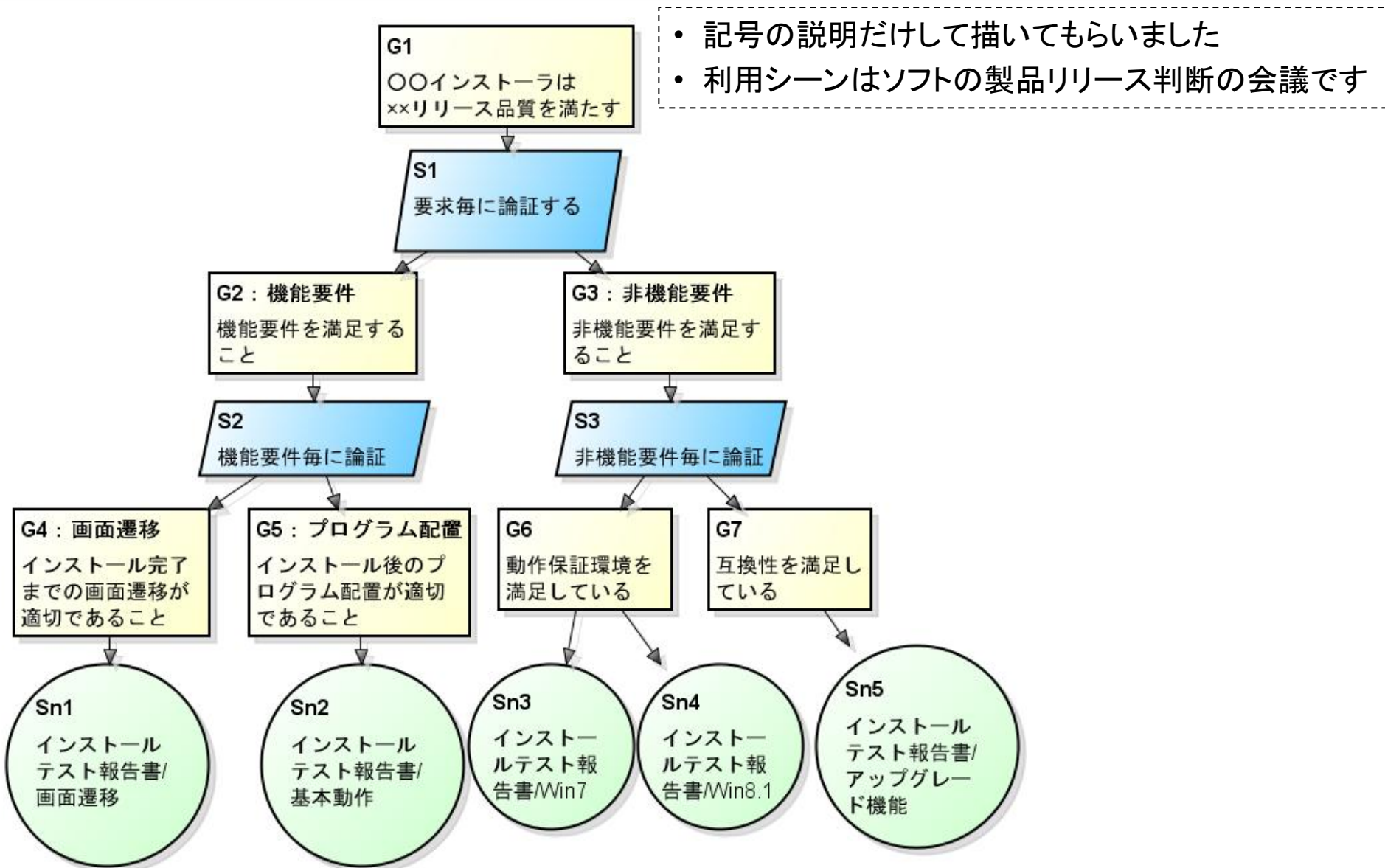


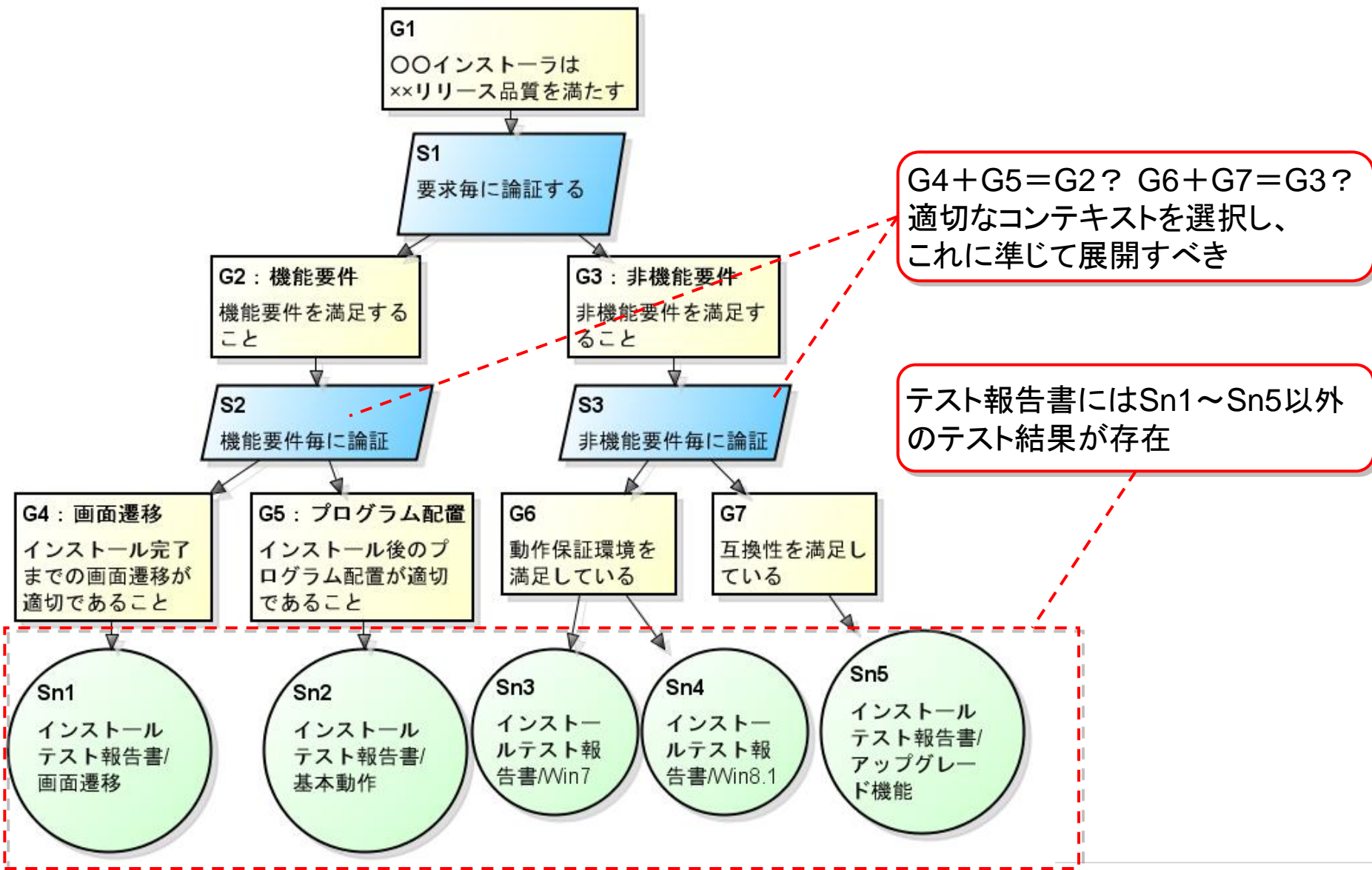
- 記号の説明だけして描いてもらいました
- 利用シーンは計画の妥当性を審議する会議
- 前回リリース品に機能追加するプロジェクト



# 計画立案の事例②:こんな意見が出ました







- D-Caseには記述者の「考え方」が現れることが分かった
  - Goal=G1+G2+G3 とする人、Goal=G1+G2+G3+G4 とする人
  - コンテキストで問題領域を限定する人、サブゴールの網羅性を重要視する人、etc.
- DCDDの有効性
  - 成果品質を一定に保つために開発プロセスを使って「行動」を揃えてきた
  - DCDDは「行動」の基となる「考え方」も残して合意する活動
  - 展開パターンの整備や良い事例を蓄積することで「考え方」を揃えることができる

➡ DCDDで「行動」と「考え方」の均一化、均した上で改善
- D-Caseの作成に時間がかかる
  - 議論分解の良い文言が思いつかない
  - どこまで掘り下げれば相手は納得してくれる？ など
- 作成されたD-Caseの理解が大変
  - 要素が細かすぎて巨大化したD-Case
  - 同じ意味なのに似て非なる言葉を使用、など

真似できる良い事例がないものか...

- ソフト開発のシーンに合わせた議論分解パターンセットの標準化
- 自動車業界の規格と組み合わせた活用事例の蓄積・共有
- D-Case技術者のトレーニング講座の整備
  - レビューに使えるD-Case作成講座(A3×1-2枚でまとめる技術など)を期待！

⇒ デンソークリエイト内でDCDDを使って事例を蓄積します。  
標準となりうる分解パターンや活用事例をもとに議論させて下さい。

ご清聴ありがとうございました

株式会社デンソークリエイト

<http://www.denso-create.jp>

愛知県名古屋市中区栄3-1-1 広小路第一生命ビル

Tel: 052-238-0460 Fax: 052-238-0461